

(国語科)

表現することを楽しむ子どもを育てる —書く力を育成する指導法の工夫—

大阪市立東中浜小学校 研修部

1.はじめに

本校では、平成 26 年度から国語科を研究教科とし、「表現することを楽しむ子どもを育てる」を主題に「書く力を育成する指導法の工夫」を副題に研究・研修に取り組んできた。また、人権研修や、特別支援教育、在日外国人教育の研修も行った。

昨年度の研究から、楽しく書く活動の工夫により、意欲的に書く姿が見られるようになったことと、友だちとの交流を工夫したことで、書くことに対する意欲が高まり、たくさん書くことができるようになったことが成果としてあげられる。一方、課題としては、題材の工夫や、書くことの基本を身につけること、書くことになれさせること、全学年に及ぶ系統だった実践の工夫に改善の余地があることが考えられる。

そして、書くことに取り組んだことで、児童アンケートで、「国語が好き」、「作文が好き」の項目の結果が、1 学期に取った結果よりも 3 学期に取ったもののほうが下がってしまっていた。そこで、今年度も昨年度の成果を生かしつつ、課題の改善を目指して、昨年度と同じ主題を研究主題とした。

2.研究の内容

目指す子ども像として、「いきいきと活動する子ども」、「自分の考えや思いを相手に伝えられる子ども」、「表現することを楽しむ子ども」の育成を目標とした。そして、「書く力を育成するための実践」、「国語科における『書くこと』の授業実践」、「楽しんで書くようになるための実践」を 3 つの柱として研究をすすめた。

(1) 研究の視点

- ① 書く力を育成するための実践
- ② 国語科における『書くこと』の授業実践
- ③ 楽しんで書くようになるための実践

(2) 実践例

- ① 書く力を育成するための実践
 - 国語タイムの設定
 - ・ 週に一回、金曜日の朝の取り組み
 - ・ 課題は、児童が自ら取り組めるような内容を考えて準備
 - ・ 全学年で取り組んだ視写による書くことの基本の定着
 - ・ 授業と関連させた言葉あつめや、なりきり作文などの学年や学級の実態に合わせた内容の工夫
 - 日記など、生活をつづる取り組み
 - ・ 全学年で日記
 - ・ 低学年中心に、発見カード
 - ・ 行事作文や今の一言、今の自分などの日常的な取り組み
 - 書いたものの交流の工夫
 - ・ 小グループ、全体で交流する

- ・ 全体の前でいいものを読む、よかったところを書き込む
- ・ 掲示する
- ・ 付箋にコメントを書き込む
- 1年～6年までの系統性の整備
 - ・ 指導書から書くことの指導に関する部分を学年ごとにまとめ、系統立てて全学年の「書くこと」の指導方法がわかるような資料作りをする
 - ・ 研究討議会でも用いられ、系統を確かめることに使った
 - ・ 高学年の授業を見て、低学年の先生が、先を見据えて指導する工夫ができる
 - ・ オノマトペ、擬音語、擬態語など、低学年から取り組めるように意識して指導を進める
- ② 国語科における「書くこと」の授業実践
 - 全学年で研究授業に取り組む
 - ・ 書くことの基礎基本の取り組み
 - ・ 書くことの題材選定の工夫
 - ・ 言葉あつめ、マッピング、ネーミング、表現の工夫、書き出しの工夫、掲示物の工夫
 - ・ 交流の工夫による効果、交流する段階
- ③ 楽しんで書くようになるための実践
 - 国語科に限らず、様々な学習場面における書く活動を通して、楽しんで書く実践に取り組んだ。
 - ・ 視点①～③の関連
 - ・ 研究討議での意見交換の工夫により学年間の取り組みの交流をした
 - ・ 動作化、相手意識、描写作文、なりきり作文などの意欲に繋がる活動の工夫
 - ・ 行事の後の他学年の児童への手紙のやり取り

3.研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 日常的な取り組みにより、「たくさん書くことができるようになった」「すらすらと書くことができるようになった」という児童の割合が増えた。
- 交流の仕方の工夫により、「友だちの意見を参考にできた」「友だちにほめられてうれしい」と児童が実感することができた。
- 書くことの基本が身につく、言葉集めや、マッピングなどで、書き始めが早くなった。
- 特に、物語やお話作りの活動で意欲が高まった。

(2) 今後の課題

- 書くことのスキルを身につけることに重点を置き過ぎると、楽しく書く活動になりにくい。
- 書く時間と交流させる時間とのバランスが難しい。
- 書きたい意欲につながる題材の設定の工夫。